

学校コード F143110111295

注3

意見伺い (JD)

設置年度 令和 3年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

注2

熊本大学

大学院社会文化科学教育部 熊本大学・マサチューセッツ州立大学ボストン校紛争解決学国際連携専攻（博士前期課程）

【意見伺い (JD)】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

国立大学法人熊本大学

令和5年5月1日現在

作成担当者

担当部局 (課) 名 経営企画本部

職名・氏名 カカリインイヌツカ ヒトミ
係員・犬塚 仁美

電話番号 096-342-2033

(夜間) 096-342-2033

e-mail sgo-kikaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学の設置の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

社会文化科学教育部

	ページ
＜熊本大学・マサチューセッツ州立大学ボストン校紛争解決学国際連携専攻＞	
1. 調査対象大学等の概要等	4
2. 授業科目の概要	9
3. 施設・設備の整備状況、経費	16
4. 既設大学等の状況	18
5. 教員組織の状況	20
6. 附帯事項等に対する履行状況等	29
7. その他全般的事項	31

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 熊本大学

【連携外国大学の設置者】 米国マサチューセッツ州

(2) 大学名

熊本大学

【連携外国大学の名称】

University of Massachusetts Boston

(3) 調査対象大学等の位置

〒860-8555

熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号（熊本市中央区黒髪2丁目39番1号）

【連携外国大学の本部の位置】

The University of Massachusetts Boston, 100 Morrissey Boulevard, Boston, MA 02125-3393 U.S.A.

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(カガ ヒサ) 小川 久雄 (令和3年4月)		
教育部長	(ハヤ イヅ) 林 一郎 (令和3年4月)	(カマ ヒロシ) 鹿嶋 洋 (令和5年4月)	任期満了に伴う変更 令和5年4月1日(5)
学科長等	(イト ヒロリ) 伊藤 洋典 (令和3年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（ ）書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和5年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
社会文化科学教育 熊本大学・マサチューセッツ州立大学 ポストン校紛争解決学国際連携専攻 修士(紛争解決学)	法学関係	2年	<14>	2年次 0人	<25>	-	
			4人	3年次 -人	8人		
			人	4年次 -人	人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ < >内の数字は、母体となる学部等の全体の入学定員を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	4月入学 熊本大学	9月入学 Umass Boston	4月入学 熊本大学	9月入学 Umass Boston	4月入学 熊本大学	9月入学 Umass Boston							
A	入学定員	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	0.16倍	-倍	0.25倍	-倍	※1 入学試験未実施
	志願者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)					
	受験者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)					
	合格者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)					
	B 入学者数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)					
	入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	0.25	0	0	0.25								

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、「春季入学」と「その他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)」に分けて数値を記入してください。「春季入学」のみの実施の場合は、「その他の学期」欄は「-」を記入してください。また、「その他の学期」に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「春季入学」、「その他の学期」については、各国際連携学科等の入学時期に合わせて表を修正してください。(例)「春季入学」→「6月入学」、「10月入学」等 「その他の学期」→「10月入学」等
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	4月入学 原本大学	9月入学 Umass Boston	4月入学 原本大学	9月入学 Umass Boston	4月入学 原本大学	9月入学 Umass Boston	
1年次							1 [1] (-)	0 [0] (-)	0 [0] (-)	0 [0] (-)	1 [0] (-)	- [-] (-)	
2年次									1 [1] (-)	0 [0] (-)	1 [1] (1)	- [-] (-)	
3年次													
4年次													
計	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	1 [1] (-)	1 [1] (-)	2 [1] (1)						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ **編入学生や転入学生も含めて**記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、「春季入学」と「その他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)」に分けて数値を記入してください。**「春季入学」のみの実施の場合は、「その他の学期」欄は「-」を記入してください。**
また、「その他の学期」に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ **「春季入学」、「その他の学期」については、各国際連携学科等の入学時期に合わせて表を修正**してください。
(例)「春季入学」→「6月入学」、「10月入学」等 「その他の学期」→「10月入学」等
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	1 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
令和4年度	1 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
令和5年度	2 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{1} = \boxed{0} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{1} = \boxed{0} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{2} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<社会文化科学教育部 熊本大学・マサチューセッツ州立大学ボストン校紛争解決学国際連携専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目群	紛争解決の諸理論 (Theories of Conflict Resolution)	○	1前-1後	熊本大学	3			2	2					
	理論入門(Introductory Theory)		1前	マサチューセッツ州立大学ボストン校	3				1					
	紛争解決学における研究の方法(Research Method in Conflict Resolution)		1後	マサチューセッツ州立大学ボストン校	3				1					
	交渉学(Negotiation)		1前	マサチューセッツ州立大学ボストン校	3				1					
	小計(4科目)	-			12	0	0	2	5	0	0	0	0	
応用科目群	地域開発と紛争解決 (Regional Development and Conflict Resolution in Japan)		1前	熊本大学	3			2						
	環境正義や健康に関する紛争解決:ケース・フィールドスタディ (Environmental Justice, Health, and Conflict Transformation: Case and Field Studies)		2前	熊本大学	3				1					
	修復的正義—その理論、実践、適用 (Restorative Justice: Theories, Practice, and Applications)		1前	熊本大学	3				1					
	アジアにおけるADR制度の比較研究 (Comparative Study of ADR in Asian Countries)		2後	熊本大学	3			1						
	紛争における意思決定とゲーム理論 (Decision-Making and Game Theory in Conflicts)		2後	熊本大学	3				1					
	東アジアの安全保障 (Security Issues of East Asia)		1前	熊本大学	3				1					
	アイデンティティの政治と人類学 (The Politics of Identity and Anthropology)		2後	熊本大学	3			1						
	水俣病事件からの教訓:高度経済成長期における有機水銀事件 (Lessons learnt from Minamata incident: the mass methylmercury poisoning happened in the period of Japan's rapid economic growth)		1前	熊本大学	3			1	2					
	ハンセン病と差別の歴史 (History of Discrimination: Hansen Disease in Kumamoto)		2前	熊本大学	3				1					
	文化横断的紛争 (Cross-Cultural Conflict)		1後	マサチューセッツ州立大学ボストン校	3				1					
	組織内の紛争解決 (Conflict Resolution in Organizations)		2前	マサチューセッツ州立大学ボストン校	3				1					
	メディエーション (Mediation Internship Seminar)		2前	マサチューセッツ州立大学ボストン校	3					2				
	集団間対話とファシリテーション (Inter-Group Dialog and Facilitation)		1前	マサチューセッツ州立大学ボストン校	3				1					
	自治体の紛争解決に関する研究 (Collaborative Governance)		2後	マサチューセッツ州立大学ボストン校	3				1					
	小計(14科目)	-			0	42	0	8	8	2	0	0	0	
インターンシップ	インターンシップ (Internship)		2前-2後	熊本大学	3				2					
	小計(1科目)	-			3	0	0	2	0	0	0	0	0	
修了科目	特別研究A(Special Research A)		2前	熊本大学	3			9	8					
	特別研究B(Special Research B)		2後	熊本大学	3			9	8					
	小計(2科目)	-			6	0	0	18	16	0	0	0	0	
	合計(21科目)	-			21	42	0	30	29	2	0	0	0	

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目群	紛争解決の諸理論 (Theories of Conflict Resolution)	○	1前-1後	熊本大学	3			1	1				
	理論入門(Introductory Theory)		1前	マサチューセッツ州立大学ボストン校	3				1				
	紛争解決学における研究の方法(Research Method in Conflict Resolution)		1後	マサチューセッツ州立大学ボストン校	3				1				
	交渉学(Negotiation)		1前	マサチューセッツ州立大学ボストン校	3				1				
	小計(4科目)	-			12	0	0	1	3	0	0	0	0
応用科目群	地域開発と紛争解決 (Regional Development and Conflict Resolution in Japan)		1前	熊本大学	3			1	1				
	環境正義や健康に関する紛争解決:ケース・フィールドスタディ (Environmental Justice, Health, and Conflict Transformation: Case and Field Studies)		2前	熊本大学	3				1				
	修復的正義—その理論、実践、適用 (Restorative Justice: Theories, Practice, and Applications)		1前	熊本大学	3				1				
	アジアにおけるADR制度の比較研究 (Comparative Study of ADR in Asian Countries) (未開講)		2後	熊本大学	3				1				
	紛争における意思決定とゲーム理論 (Decision-Making and Game Theory in Conflicts)		2後	熊本大学	3				1				
	東アジアの安全保障 (Security Issues of East Asia)		1前	熊本大学	3				1				
	アイデンティティの政治と人類学 (The Politics of Identity and Anthropology)		2後	熊本大学	3			1					
	水俣病事件からの教訓:高度経済成長期における有機水銀事件 (Lessons learnt from Minamata incident: the mass methylmercury poisoning happened in the period of Japan's rapid economic growth)		1前	熊本大学	3			2	1				
	ハンセン病と差別の歴史 (History of Discrimination: Hansen Disease in Kumamoto)		2前	熊本大学	3				1				
	文化横断的紛争 (Cross-Cultural Conflict)		1後	マサチューセッツ州立大学ボストン校	3				1				
	組織内の紛争解決 (Conflict Resolution in Organizations)		2前	マサチューセッツ州立大学ボストン校	3				1				
	メディエーション (Mediation Internship Seminar)		2前	マサチューセッツ州立大学ボストン校	3					2			
	集団間対話とファシリテーション (Inter-Group Dialog and Facilitation)		1前	マサチューセッツ州立大学ボストン校	3				1				
	自治体の紛争解決に関する研究 (Collaborative Governance)		2後	マサチューセッツ州立大学ボストン校	3				1				
	小計(14科目)	-			0	42	0	6	7	3	0	0	0
インターンシップ	インターンシップ (Internship)		2前-2後	熊本大学	3				2				
	小計(1科目)	-			3	0	0	2	0	0	0	0	0
修了科目	特別研究A(Special Research A)		2前	熊本大学	3			8	7	1			
	特別研究B(Special Research B)		2後	熊本大学	3			8	7	1			
	小計(2科目)	-			6	0	0	8	7	2	0	0	0
	合計(21科目)	-			21	42	0	8	8	3	0	0	0

卒業要件及び履修方法

(修了要件)

2年以上在学し、熊本大学において18単位以上、マサチューセッツ州立大学ポストン校において18単位以上、合計で36単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文又は特定の課題について研究成果の審査及び最終試験に合格すること。

在学期間に関しては、教授会が優れた業績を上げたと認める者については、本専攻に1年以上在学すれば足りる。

(履修方法)

必修科目である基礎科目群(12単位)、インターンシップ(3単位)及び特別研究(6単位)並びに応用科目群から個人毎に選択する5科目(15単位)を含め36単位以上を履修する。

卒業要件及び履修方法

(修了要件)

2年以上在学し、熊本大学において18単位以上、マサチューセッツ州立大学ポストン校において18単位以上、合計で36単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文又は特定の課題について研究成果の審査及び最終試験に合格すること。

在学期間に関しては、教授会が優れた業績を上げたと認める者については、本専攻に1年以上在学すれば足りる。

(履修方法)

必修科目である基礎科目群(12単位)、インターンシップ(3単位)及び特別研究(6単位)並びに応用科目群から個人毎に選択する5科目(15単位)を含め36単位以上を履修する。

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目群	紛争解決の諸理論 (Theories of Conflict Resolution)	○	1前・1後	熊本大学	3			2	1					
	理論入門(Introductory Theory)		1前	熊本大学	3				1					
	紛争解決学における研究の方法(Research Method in Conflict Resolution)		1後	熊本大学	3				1					
	交渉学(Negotiation)		1前	熊本大学	3				1					
	小計(4科目)	-			12	0	0	2	3	0	0	0	0	0
応用科目群	地域開発と紛争解決 (Regional Development and Conflict Resolution in Japan)		1前	熊本大学	3			2						
	環境正義や健康に関する紛争解決: ケース・フィールドスタディ (Environmental Justice, Health, and Conflict Transformation: Case and Field Studies) (未開講)		2前	熊本大学	3				1					
	修復的正義—その理論、実践、適用 (Restorative Justice: Theories, Practice, and Applications)		1前	熊本大学	3				1					
	アジアにおけるADR制度の比較研究 (Comparative Study of ADR in Asian Countries) (未開講)		2後	熊本大学	3			1						
	紛争における意思決定とゲーム理論(Decision-Making and Game Theory in Conflicts) (未開講)		2後	熊本大学	3				1					
	東アジアの安全保障 (Security Issues of East Asia)		1前	熊本大学	3				1					
	アイデンティティの政治と人類学(The Politics of Identity and Anthropology) (未開講)		2後	熊本大学	3			1						
	水俣病事件からの教訓: 高度経済成長期における有機水銀事件(Lessons learnt from Minamata incident: the mass methylmercury poisoning happened in the period of Japan's rapid economic growth)		1前	熊本大学	3			2	1					
	ハンセン病と差別の歴史 (History of Discrimination: Hansen Disease in Kumamoto) (未開講)		2前	熊本大学	3				1					
	文化横断的紛争 (Cross-Cultural Conflict)		1後	熊本大学	3				1					
	組織内の紛争解決 (Conflict Resolution in Organizations) (未開講)		2前	熊本大学	3				1					
	メディエーション (Mediation Internship Seminar) (未開講)		2前	熊本大学	3					2				
	集団間対話とファシリテーション(Inter-Group Dialog and Facilitation)		1前	熊本大学	3				1					
	自治体の紛争解決に関する研究(Collaborative Governance)		2後	熊本大学	3				1					
小計(14科目)	-			0	42	0	8	6	2	0	0	0	0	
インターンシップ	インターンシップ (Internship) (未開講)		2前・2後	熊本大学	3			2						
	小計(1科目)	-			3	0	0	2	0	0	0	0	0	
修了科目	特別研究A(Special Research A) (未開講)		2前	熊本大学	3			10	7					
	特別研究B(Special Research B) (未開講)		2後	熊本大学	3			10	7					
	小計(2科目)	-			6	0	0	10	7	0	0	0	0	
合計(21科目)	-			21	42	0	10	7	2	0	0	0	0	

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	共同開設科目	配当年次	開設大学	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
					必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目群	紛争解決の諸理論 (Theories of Conflict Resolution)	○	1前・1後	熊本大学	3			2	1				
	理論入門(Introductory Theory)		1前	熊本大学	3				1				
	紛争解決学における研究の方法(Research Method in Conflict Resolution)		1後	熊本大学	3				1				
	交渉学(Negotiation)		1前	熊本大学	3				1				
	小計(4科目)	-			12	0	0	2	3	0	0	0	0
応用科目群	地域開発と紛争解決 (Regional Development and Conflict Resolution in Japan)		1前	熊本大学	3			2					
	環境正義や健康に関する紛争解決: ケース・フィールドスタディ (Environmental Justice, Health, and Conflict Transformation: Case and Field Studies)		2前	熊本大学	3				1				
	修復的正義—その理論、実践、適用 (Restorative Justice: Theories, Practice, and Applications)		1前	熊本大学	3				1				
	アジアにおけるADR制度の比較研究 (Comparative Study of ADR in Asian Countries)		2後	熊本大学	3			1					
	紛争における意思決定とゲーム理論(Decision-Making and Game Theory in Conflicts)		2後	熊本大学	3				1				
	東アジアの安全保障 (Security Issues of East Asia)		1前	熊本大学	3				1				
	アイデンティティの政治と人類学(The Politics of Identity and Anthropology)		2後	熊本大学	3			1					
	水俣病事件からの教訓: 高度経済成長期における有機水銀事件(Lessons learnt from Minamata incident: the mass methylmercury poisoning happened in the period of Japan's rapid economic growth)		1前	熊本大学	3			2	1				
	ハンセン病と差別の歴史 (History of Discrimination: Hansen Disease in Kumamoto)		2前	熊本大学	3				1				
	文化横断的紛争 (Cross-Cultural Conflict)		1後	熊本大学	3				1				
	組織内の紛争解決 (Conflict Resolution in Organizations)		2前	熊本大学	3				1				
	メディエーション (Mediation Internship Seminar)		2前	熊本大学	3					2			
	集団間対話とファシリテーション(Inter-Group Dialog and Facilitation)		1前	熊本大学	3				1				
	自治体の紛争解決に関する研究(Collaborative Governance)		2後	熊本大学	3				1				
小計(14科目)	-			0	42	0	8	6	2	0	0	0	
インターンシップ	インターンシップ (Internship)		2前・2後	熊本大学	3			2					
	小計(1科目)	-			3	0	0	2	0	0	0	0	
修了科目	特別研究A(Special Research A)		2前	熊本大学	3			10	7	1			
	特別研究B(Special Research B)		2後	熊本大学	3			10	7	1			
	小計(2科目)	-			6	0	0	10	7	1	0	0	0
合計(21科目)	-			21	42	0	10	7	3	0	0	0	

卒業要件及び履修方法

(修了要件)
2年以上在学し、熊本大学において18単位以上、マサチューセッツ州立大学ポストン校において18単位以上、合計で36単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文又は特定の課題について研究成果の審査及び最終試験に合格すること。
在学期間に関しては、教授会が優れた業績を上げたと認める者については、本専攻に1年以上在学すれば足りる。
(履修方法)
必修科目である基礎科目群(12単位)、インターンシップ(3単位)及び特別研究(6単位)並びに応用科目群から個人毎に選択する5科目(15単位)を含め36単位以上を履修する。

卒業要件及び履修方法

(修了要件)
2年以上在学し、熊本大学において18単位以上、マサチューセッツ州立大学ポストン校において18単位以上、合計で36単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文又は特定の課題について研究成果の審査及び最終試験に合格すること。
在学期間に関しては、教授会が優れた業績を上げたと認める者については、本専攻に1年以上在学すれば足りる。
(履修方法)
必修科目である基礎科目群(12単位)、インターンシップ(3単位)及び特別研究(6単位)並びに応用科目群から個人毎に選択する5科目(15単位)を含め36単位以上を履修する。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・ カリキュラム編成の調整により、「紛争解決の諸理論(Theories of Conflict Resolution)」の専任教員等の配置を「教授2」「准教授2」から「教授2」「准教授1」に変更。
- ・ 担当教員の昇任により、「水俣病事件からの教訓：高度経済成長期における有機水銀事件(Lessons learnt from Minamata incident: the mass methylmercury poisoning happened in the period of Japan's rapid economic growth)」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授2」から「教授2」「准教授1」に変更。
- ・ 担当教員の昇任により、「特別研究A(Special Research A)」の専任教員等の配置を「教授9」「准教授8」から「教授10」「准教授7」に変更。
- ・ 担当教員の昇任により、「特別研究B(Special Research B)」の専任教員等の配置を「教授9」「准教授8」から「教授10」「准教授7」に変更。

【令和4年度】

- ・ 教育上の効果を高めるため、「特別研究A(Special Research A)」の専任教員等の配置を「教授10」「准教授7」から「教授10」「准教授7」「講師1」に変更。
- ・ 教育上の効果を高めるため、「特別研究B(Special Research B)」の専任教員等の配置を「教授10」「准教授7」から「教授10」「准教授7」「講師1」に変更。

【令和5年度】

- ・ カリキュラム編成の調整により、「紛争解決の諸理論(Theories of Conflict Resolution)」の専任教員等の配置を「教授2」「准教授1」から「教授1」「准教授1」に変更。
- ・ 担当教員の定年退職により、「地域開発と紛争解決(Regional Development and Conflict Resolution in Japan)」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」「講師1」に変更。
- ・ 担当教員の定年退職により、「アジアにおけるADR制度の比較研究(Comparative Study of ADR in Asian Countries)」の専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更。
- ・ 担当教員の定年退職により、「特別研究A(Special Research A)」の専任教員等の配置を「教授10」「准教授7」「講師1」から「教授8」「准教授7」「講師1」に変更。
- ・ 担当教員の定年退職により、「特別研究B(Special Research B)」の専任教員等の配置を「教授10」「准教授7」「講師1」から「教授8」「准教授7」「講師1」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

	設置時の計画				変更状況				備考
	必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
熊本大学	3 科目	9 科目	0 科目	12 科目	3 科目 [0]	9 科目 [0]	0 科目 [0]	12 科目 [0]	
マサチューセッツ州立大学ポストン校	6 科目	5 科目	0 科目	11 科目	6 科目 [0]	5 科目 [0]	0 科目 [0]	11 科目 [0]	
共同開設科目	1 科目	0 科目	0 科目	1 科目	1 科目 [0]	0 科目 [0]	0 科目 [0]	1 科目 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	開設大学	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	熊本大学	アジアにおけるADR制度の比較研究 (Comparative Study of ADR in Asian Countries)	3	2	専門	選択	カリキュラム編成の調整により、今年度は未開講とする。他に選択可能な科目が複数あるため、履修上の問題はなく代替措置は無。
2	マサチューセッツ州立大学ボストン校						該当なし
3	共同開設科目						該当なし

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	開設大学	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	熊本大学						該当なし
2	マサチューセッツ州立大学ボストン校						該当なし
3	共同開設科目						該当なし

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

未開講とした科目は選択科目のうちの1科目であり、他の科目の履修により修了要件を十分に充足可能であるため、未開講としたことによる大きな影響はないと考えている。
 学生への周知方法について、開講予定科目一覧を学内ネットワーク内で閲覧可能としている。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{24} = \boxed{4.16} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	放送大学熊本学習セ ンターとの共用623㎡ 地上権設定者：財団 法人熊本テクノポリ ス財団 地上権設定期間： H29. 9. 1から3年間 19, 945㎡ 貸与者：熊本市 借用期間：H29. 4. 1か らH30. 3. 31（以降、 毎年度更新）494㎡ 貸与者：益城町 借用期間：H30. 10. 1 からR2. 9. 30（以降、 毎年度更新）331㎡		
	校 舎 敷 地	475, 024 (20, 770) ㎡	623㎡	0㎡	475, 647 (20, 770) ㎡			
	運 動 場 用 地	39, 752 (0) ㎡	0㎡	0㎡	39, 752 (0) ㎡			
	小 計	514, 776 (20, 770) ㎡	623㎡	0㎡	515, 399 (20, 770) ㎡			
	そ の 他	144, 293 (0) ㎡	0㎡	0㎡	144, 293 (0) ㎡			
	合 計	659, 069 (20, 770) ㎡	623㎡	0㎡	659, 692 (20, 770) ㎡			
(2) 校 舎	専 用	457, 740㎡	0㎡	1, 112㎡	458, 852㎡	放送大学熊本学習セ ンターの専用1, 112㎡		
	(457, 740㎡)	(0㎡)	(1, 112㎡)	(458, 852㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	122室	90室	1, 206室	9室 (補助職員 6人)	13室 (補助職員 3人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		11 室		
	社会文化科学教育部 熊本大学・マサチュー セッツ州立大学ポストン校紛争解決学国際連携							
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	
		〔うち外国書〕 冊	〔うち外国書〕 種					〔うち外国書〕 点
	大学全体	1, 255, 975 [482, 340] (1, 255, 975 [482, 340])	21, 266 [7, 207] (21, 266 [7, 207])	17, 031 [15, 706] (17, 031 [15, 706])	2, 184 (2, 184)	67, 684 (67, 684)	35 (35)	
	計	1, 255, 975 [482, 340] (1, 255, 975 [482, 340])	21, 266 [7, 207] (21, 266 [7, 207])	17, 031 [15, 706] (17, 031 [15, 706])	2, 184 (2, 184)	67, 684 (67, 684)	35 (35)	
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
	12, 347㎡		936		1, 035, 084			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
	8, 245 ㎡		陸上競技場、ラグビー場、サッカー場、テニスコート 等					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円
	学生1人当 り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）

※国際連携学科等に係る申請大学の状況を記載し、連携外国大学の状況は含めないでください。

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度5月1日現在の数値を記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少，建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8) 経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	熊本大学										平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	1	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	1
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考					
	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度							
文学部	4	170	10	700		1.05	-	1.09	1.03	-		熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号						
総合人間学科	4	55	-	220	学士(文学)	1.04	-	1.10	1.05	-	平成17	同上						
歴史学科	4	35	-	140	学士(文学)	1.03	-	1.13	1.06	-	平成17	同上						
文学科	4	50	-	200	学士(文学)	0.94	-	1.00	0.96	-	平成17	同上						
コミュニケーション情報学科	4	30	-	120	学士(文学)	1.28	-	1.35	1.26	-	平成17	同上						
学部共通	4		3年次10	20	学士(文学)	-	-	-	-	-	平成11	同上						
教育学部	4	0	-	440		1.04	1.04	1.04	1.04	-		熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号						
学校教育教員養成課程	4	220	-	440	学士(教育学)	1.04	1.04	1.04	1.04	-	令和4	同上	学部の学科の設置(事前相談)					
小学校教員養成課程	4	-	-	220	学士(教育学)	-	-	-	-	-	昭和24	同上	令和4年度より学生募集停止					
中学校教員養成課程	4	-	-	140	学士(教育学)	-	-	-	-	-	昭和24	同上	令和4年度より学生募集停止					
特別支援教育教員養成課程	4	-	-	40	学士(教育学)	-	-	-	-	-	平成19	同上	令和4年度より学生募集停止					
養護教諭養成課程	4	-	-	60	学士(教育学)	-	-	-	-	-	昭和52	同上	令和4年度より学生募集停止					
法学部	4	210	10	860		1.01	-	1.03	0.99	-		熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号						
法学科	4	210	-	840	学士(法学)	1.01	-	1.03	0.99	-	平成16	同上						
学部共通			3年次10	20	学士(法学)	-	-	-	-	-	平成12	同上						
理学部	4	200	-	800		1.01	-	1.04	0.99	-		熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号						
理学科	4	200	-	800	学士(理学)	1.01	-	1.04	0.99	-	平成16	同上						
医学部																		
医学科	6	110	-	670	学士(医学)	0.99	-	1.06	1.01	令和4	昭和24	熊本県熊本市中央区本荘1丁目1番1号	収容定員変更					
保健学科	4	144	-	576	学士(看護学、保健学)	1.02	-	1.02	0.99	-	平成15	熊本県熊本市中央区九品寺4丁目24番1号						
保健学科共通			3年次16	32	学士(看護学、保健学)	-	-	-	-	-	平成18	同上						
薬学部																		
薬学科	6	55	-	330	学士(薬学)	1.03	-	1.05	1.02	-	平成18	熊本県熊本市中央区大江本町5番1号						
創薬・生命薬科学科	4	35	-	140	学士(創薬科学、生命薬科学)	1.06	-	1.07	1.05	-	平成18	同上						
工学部	4	513	45	2162		1.01	-	1.07	1.01	-		熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号						
土木建築学科	4	124	3年次10	516	学士(工学)	1.03	-	1.09	1.04	-	平成30	同上						
機械数理工学科	4	109	3年次12	456	学士(工学)	1.01	-	1.05	1.01	-	平成30	同上						
情報電気工学科	4	149	3年次35	636	学士(工学)	1.00	-	1.07	1.00	-	平成30	同上						
材料・応用化学科	4	131	3年次8	534	学士(工学)	1.01	-	1.07	1.01	-	平成30	同上						
物質生命化学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	-	-	-	-	平成18	同上	平成30年度より学生募集停止					

マテリアル工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	-	-	-	平成18	同上	平成30年度より学生募集停止
機械システム工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	-	-	-	平成18	同上	平成30年度より学生募集停止
情報電気電子工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	-	-	-	-	平成18	同上	平成30年度より学生募集停止
学部共通			3年次 -	-	学士 (工学)	-	-	-	-	-	平成10	同上	平成30年度より学生募集停止

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 （様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。）
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「平均入学定員超過率（控除後）」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「平均入学定員超過率（控除後含む）」及び「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

(1) ① 担当教員表
 <熊本大学>

【認可時又は届出時】

【令和3年度】

【令和4年度】

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専(調)	教授	伊藤 洋典 <令和3年4月> 博士(法学)	専(調)	教授	伊藤 洋典 <令和3年4月> 博士(法学)	専(調)	教授	伊藤 洋典 <令和3年4月> 博士(法学)	専(調)	教授	伊藤 洋典 <令和3年4月> 博士(法学)
		地域開発と紛争解決 水俣病事件からの教訓：高度経済成長期における有機水銀事件 イオンファ 特別研究A 特別研究B			地域開発と紛争解決 水俣病事件からの教訓：高度経済成長期における有機水銀事件 イオンファ 特別研究A 特別研究B			地域開発と紛争解決 水俣病事件からの教訓：高度経済成長期における有機水銀事件 イオンファ 特別研究A 特別研究B			地域開発と紛争解決 水俣病事件からの教訓：高度経済成長期における有機水銀事件 イオンファ 特別研究A 特別研究B
専	教授	葉 陵陵 <令和3年4月> 博士(法学)	専	教授	葉 陵陵 <令和3年4月> 博士(法学)	専	教授	葉 陵陵 <令和3年4月> 博士(法学)	専	教授	葉 陵陵 <令和3年4月> 博士(法学)
		アジアにおけるADR制度の比較研究 特別研究A 特別研究B			アジアにおけるADR制度の比較研究 特別研究A 特別研究B			アジアにおけるADR制度の比較研究 特別研究A 特別研究B			アジアにおけるADR制度の比較研究 特別研究A 特別研究B
専	教授	池田 康弘 <令和3年5月> 博士(経済学)	専	教授	池田 康弘 <令和3年5月> 博士(経済学)	専	教授	池田 康弘 <令和3年5月> 博士(経済学)	専	教授	池田 康弘 <令和3年5月> 博士(経済学)
		水俣病事件からの教訓：高度経済成長期における有機水銀事件 特別研究A 特別研究B			水俣病事件からの教訓：高度経済成長期における有機水銀事件 特別研究A 特別研究B			水俣病事件からの教訓：高度経済成長期における有機水銀事件 特別研究A 特別研究B			水俣病事件からの教訓：高度経済成長期における有機水銀事件 特別研究A 特別研究B
専	教授	慶田 勝彦 <令和3年4月> 博士(教育学)	専	教授	慶田 勝彦 <令和3年4月> 博士(教育学)	専	教授	慶田 勝彦 <令和3年4月> 博士(教育学)	専	教授	慶田 勝彦 <令和3年4月> 博士(教育学)
		アイデンティティの政治と人類学 特別研究A 特別研究B			アイデンティティの政治と人類学 特別研究A 特別研究B			アイデンティティの政治と人類学 特別研究A 特別研究B			アイデンティティの政治と人類学 特別研究A 特別研究B
専	教授	岡田 行雄 <令和3年4月> 博士(法学)	専	教授	岡田 行雄 <令和3年4月> 博士(法学)	専	教授	岡田 行雄 <令和3年4月> 博士(法学)	専	教授	岡田 行雄 <令和3年4月> 博士(法学)
		ハンセン病と差別の歴史 特別研究A 特別研究B			ハンセン病と差別の歴史 特別研究A 特別研究B			ハンセン病と差別の歴史 特別研究A 特別研究B			ハンセン病と差別の歴史 特別研究A 特別研究B
専	教授	矢原 隆行 <令和3年4月> 修士(文学)	専	教授	矢原 隆行 <令和3年4月> 修士(文学)	専	教授	矢原 隆行 <令和3年4月> 修士(文学)	専	教授	矢原 隆行 <令和3年4月> 修士(文学)
		紛争解決の諸理論 特別研究A 特別研究B			紛争解決の諸理論 特別研究A 特別研究B			紛争解決の諸理論 特別研究A 特別研究B			特別研究A 特別研究B
専	教授	渡部 薫 <令和3年4月> 博士(学術)	専	教授	渡部 薫 <令和3年4月> 博士(学術)	専	教授	渡部 薫 <令和3年4月> 博士(学術)	専	教授	渡部 薫 <令和3年4月> 博士(学術)
		地域開発と紛争解決 特別研究A 特別研究B			地域開発と紛争解決 特別研究A 特別研究B			地域開発と紛争解決 特別研究A 特別研究B			地域開発と紛争解決 特別研究A 特別研究B
専	准教授	阿部 悠貴 <令和3年4月> 博士(政治学)	専	准教授	阿部 悠貴 <令和3年4月> 博士(政治学)	専	准教授	阿部 悠貴 <令和3年4月> 博士(政治学)	専	准教授	阿部 悠貴 <令和3年4月> 博士(政治学)
		東アジアの安全保障 特別研究A 特別研究B			東アジアの安全保障 特別研究A 特別研究B			東アジアの安全保障 特別研究A 特別研究B			東アジアの安全保障 特別研究A 特別研究B
専	准教授	池田 康弘 <令和3年4月> 博士(経済学)									
		水俣病事件からの教訓：高度経済成長期における有機水銀事件 特別研究A 特別研究B									
専	准教授	石原 明子 <令和3年4月> 修士(文学)	専	准教授	石原 明子 <令和3年4月> 修士(文学)	専	准教授	石原 明子 <令和3年4月> 修士(文学)	専	准教授	石原 明子 <令和3年4月> 修士(文学)
		環境正義や健康に関する紛争解決： ケース・フィールドスタディ 修復的正義—その理論、実践、適用 特別研究A 特別研究B			紛争解決の諸理論 環境正義や健康に関する紛争解決： ケース・フィールドスタディ 修復的正義—その理論、実践、適用 特別研究A 特別研究B			紛争解決の諸理論 環境正義や健康に関する紛争解決： ケース・フィールドスタディ 修復的正義—その理論、実践、適用 特別研究A 特別研究B			紛争解決の諸理論 環境正義や健康に関する紛争解決： ケース・フィールドスタディ 修復的正義—その理論、実践、適用 特別研究A 特別研究B
専	准教授	池邊 康依 <令和5年4月> 修士(法学)							専	准教授	池邊 康依 <令和5年4月> 修士(法学)
		アジアにおけるADR制度の比較研究									アジアにおけるADR制度の比較研究

専	准教授	森 大輔 ＜令和3年4月＞ 修士（法学）
		紛争解決の諸理論 紛争における意思決定とゲーム理論 特別研究A 特別研究B
専	准教授	諏佐 マリ ＜令和3年4月＞ 修士（法学）
		水俣病事件からの教訓：高度経済成長期における有機水銀事件 特別研究A 特別研究B

専	准教授	森 大輔 ＜令和3年4月＞ 修士（法学）
		紛争における意思決定とゲーム理論 特別研究A 特別研究B
専	准教授	諏佐 マリ ＜令和3年4月＞ 修士（法学）
		水俣病事件からの教訓：高度経済成長期における有機水銀事件 特別研究A 特別研究B

専	准教授	森 大輔 ＜令和3年4月＞ 修士（法学）
		紛争における意思決定とゲーム理論 特別研究A 特別研究B
専	准教授	諏佐 マリ ＜令和3年4月＞ 修士（法学）
		水俣病事件からの教訓：高度経済成長期における有機水銀事件 特別研究A 特別研究B
専	講師	土肥 勲嗣 ＜令和4年4月＞ 修士（法学）
		地域開発と紛争解決 特別研究A 特別研究B

専	准教授	森 大輔 ＜令和3年4月＞ 修士（法学）
		紛争における意思決定とゲーム理論 特別研究A 特別研究B
専	准教授	諏佐 マリ ＜令和3年4月＞ 修士（法学）
		水俣病事件からの教訓：高度経済成長期における有機水銀事件 特別研究A 特別研究B
専	講師	土肥 勲嗣 ＜令和4年4月＞ 修士（法学）
		地域開発と紛争解決 特別研究A 特別研究B

＜マサチューセッツ州立大学ボストン校＞

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
外国	教授相当 Professor of Emiritus	David E. Matz ＜令和3年4月＞
		組織内の紛争解決 インターネット 特別研究A 特別研究B
外国 (調)	教授相当 Professor	Darren Kew ＜令和3年4月＞
		文化横断的紛争 特別研究A 特別研究B
外国	教授相当 Associate Professor	Eben Weitzman ＜令和3年4月＞
		紛争解決の諸理論 特別研究A 特別研究B
外国	准教授相当 Assistant Professor	Jeffrey Pugh ＜令和3年4月＞
		紛争解決の諸理論 理論入門 交渉学 特別研究A 特別研究B
外国	准教授相当 Assistant Professor	Karren Ross ＜令和3年4月＞
		紛争解決学における研究の方法 集団対話とファシリテーション 特別研究A 特別研究B
外国	准教授相当 Assistant Professor	Madhawa Palihapitiya ＜令和3年4月＞
		自治体の紛争解決に関する研究 特別研究A 特別研究B
外国	講師相当 Lecturer	Jeanny Cleary ＜令和3年4月＞
		メディアーション
外国	講師相当 Lecturer	Douglas Thompson ＜令和3年4月＞
		メディアーション

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
外国	教授相当 Professor of Emiritus	David E. Matz ＜令和3年4月＞
		組織内の紛争解決 インターネット 特別研究A 特別研究B
外国 (調)	教授相当 Professor	Darren Kew ＜令和3年4月＞
		文化横断的紛争 特別研究A 特別研究B
外国	教授相当 Associate Professor	Eben Weitzman ＜令和3年4月＞
		紛争解決の諸理論 特別研究A 特別研究B
外国	准教授相当 Assistant Professor	Jeffrey Pugh ＜令和3年4月＞
		理論入門 交渉学 特別研究A 特別研究B
外国	准教授相当 Assistant Professor	Karren Ross ＜令和3年4月＞
		紛争解決学における研究の方法 集団対話とファシリテーション 特別研究A 特別研究B
外国	准教授相当 Assistant Professor	Madhawa Palihapitiya ＜令和3年4月＞
		自治体の紛争解決に関する研究 特別研究A 特別研究B
外国	講師相当 Lecturer	Jeanny Cleary ＜令和3年4月＞
		メディアーション
外国	講師相当 Lecturer	Douglas Thompson ＜令和3年4月＞
		メディアーション

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
外国	教授相当 Professor of Emiritus	David E. Matz ＜令和3年4月＞
		組織内の紛争解決 インターネット 特別研究A 特別研究B
外国 (調)	教授相当 Professor	Darren Kew ＜令和3年4月＞
		文化横断的紛争 特別研究A 特別研究B
外国	教授相当 Associate Professor	Eben Weitzman ＜令和3年4月＞
		紛争解決の諸理論 特別研究A 特別研究B
外国	准教授相当 Assistant Professor	Jeffrey Pugh ＜令和3年4月＞
		理論入門 交渉学 特別研究A 特別研究B
外国	准教授相当 Assistant Professor	Karren Ross ＜令和3年4月＞
		紛争解決学における研究の方法 集団対話とファシリテーション 特別研究A 特別研究B
外国	准教授相当 Assistant Professor	Madhawa Palihapitiya ＜令和3年4月＞
		自治体の紛争解決に関する研究 特別研究A 特別研究B
外国	講師相当 Lecturer	Jeanny Cleary ＜令和3年4月＞
		メディアーション
外国	講師相当 Lecturer	Douglas Thompson ＜令和3年4月＞
		メディアーション

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
外国	教授相当 Professor of Emiritus	David E. Matz ＜令和3年4月＞
		組織内の紛争解決 インターネット 特別研究A 特別研究B
外国 (調)	教授相当 Professor	Darren Kew ＜令和3年4月＞
		文化横断的紛争 特別研究A 特別研究B
外国	教授相当 Associate Professor	Eben Weitzman ＜令和3年4月＞
		紛争解決の諸理論 特別研究A 特別研究B
外国	准教授相当 Assistant Professor	Jeffrey Pugh ＜令和3年4月＞
		理論入門 交渉学 特別研究A 特別研究B
外国	准教授相当 Assistant Professor	Karren Ross ＜令和3年4月＞
		紛争解決学における研究の方法 集団対話とファシリテーション 特別研究A 特別研究B
外国	准教授相当 Assistant Professor	Madhawa Palihapitiya ＜令和3年4月＞
		自治体の紛争解決に関する研究 特別研究A 特別研究B
外国	講師相当 Lecturer	Jeanny Cleary ＜令和3年4月＞
		メディアーション
外国	講師相当 Lecturer	Douglas Thompson ＜令和3年4月＞
		メディアーション

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

<熊本大学>

【令和3年度】

- ・カリキュラム編成の調整のため、石原明子准教授の担当科目を変更。
- ・カリキュラム編成の調整のため、森大輔准教授の担当科目を変更。
- ・昇任により、令和3年5月から池田康弘准教授を教授に変更。

【令和4年度】

- ・教育上の効果を高めるため、専任教員として令和4年4月土肥勲嗣講師就任。

【令和5年度】

- ・定年退職のため、葉陵教授の担当科目を変更。
- ・定年退職のため、渡部薫教授の担当科目を変更。
- ・カリキュラム編成の調整のため、矢原隆行教授の担当科目を変更。
- ・カリキュラム編成の調整のため、土肥勲嗣講師の担当科目を変更。
- ・教育上の効果を高めるため、専任教員として令和5年4月池邊摩依准教授就任。

<マサチューセッツ州立大学ボストン校>

【令和3年度】

・カリキュラム編成の調整のため、Jeffrey Pugh准教授の担当科目を変更。

【令和4年度】

特になし。

【令和5年度】

特になし。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 本様式は、当該国際連携学科等に所属し授業科目を担当する専任教員（同一の学部又は研究科内の他の学科又は専攻の専任教員（研究指導教員等）が兼ねて担当する場合も含める）について記入してください。

(2) -① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
6	4	5
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) -② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
6	5	0	0	11	0	5	5	1	0	11	0
(6)	(5)	(0)	(0)	(11)	(0)						
研究 指導 教員 数	うち 教授 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		研究 指導 教員 数	うち 教授 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/	
11	6	0	0			10	5	0	1		
(11)	(6)	(0)	(0)								
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
5	5	1	0	11	0	5	5	1	0	11	0
[△1]	[0]	[1]	[0]	[0]	[0]	[△1]	[0]	[1]	[0]	[0]	[0]
研究 指導 教員 数	うち 教授 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		研究 指導 教員 数	うち 教授 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/	
10	5	0	1			10	5	0	1		
[△1]	[△1]	[0]	[1]			[△1]	[△1]	[0]	[1]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 []内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 []内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 （B））の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{11}{11} = \boxed{100} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{11} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）}}{\text{設置時の計画（A'）}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(注)・本様式は、当該国際連携学科等に所属し授業科目を担当する専任教員（同一の学部又は研究科内の他の学科又は専攻の専任教員（研究指導教員等）が兼ねて担当する場合も含める）について記入してください。

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
							該当なし	
合計 (D)						後任補充状況の集計 (E)		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	0	科目	選択	0	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	0	科目	計	0	科目	

- (注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
							該当なし	
合計 (F)						後任補充状況の集計 (G)		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	0	科目	選択	0	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	0	科目	計	0	科目	

- (注)・一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」

- ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{11} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第 3 位を切り捨て、小数点以下第 2 位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和 4 年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

・ 令和 5 年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
1	教授	葉 陵陵	選択	アジアにおけるADR制度の比較研究	①	R5. 3. 31付け定年退職 (5)				
			必修	特別研究A	①					
			必修	特別研究B	①					
2	教授	渡部 薫	選択	地域開発と紛争解決	①	R5. 3. 31付け定年退職 (5)				
			必修	特別研究A	①					
			必修	特別研究B	①					
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
2	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	6	科目	計	6	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

担当予定の科目については、他の専任教員により補完しており、全体的な教育の質の確保はできている。
 学生への周知方法については、開講予定科目一覧を学内ネットワーク内で閲覧可能とすることにより周知している。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4) (5)」と記載してください。

【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

＜社会文化科学教育部 熊本大学・マサチューセッツ州立大学ボストン校紛争解決学国際連携専攻＞

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>①授業科目の配当年次 「2 授業科目の概要」の「(1) -① 授業科目表」の通り。</p> <p>②専攻の英語名称 Joint Degree Program for Conflict Resolution of KU and UMass Boston</p> <p>③学位記の様式 学位記中の項目「出生都市、国名 (Place of birth, country)」</p> <p>④連携外国大学の協定書の締結者 Interim Chancellor</p>	<p>①授業科目の配当年次 COVID-19の影響による入国制限により、当初計画通りの渡航による履修ができない場合、当該科目を遠隔授業により実施することや配当年次を変更するなど、標準修業年限を超過することなく、学生にとってより教育効果の高い方法へ変更を行うことを検討している。</p> <p>②国際通用性をより高めるため、連携外国大学と調整し、専攻の英語名称を以下の通り変更。 Joint Degree Program in Conflict Resolution between KU and UMass Boston</p> <p>③改めて他大学の状況を調査、連携外国大学と調整し、学位記中の項目「出生都市、国名 (Place of birth, country)」を削除。</p> <p>④連携外国大学の協定書の締結者をProvostに変更。</p> <p>【連携大学との「協議の場」】</p> <p>開催日：2021年2月15日（合同入試委員会、メール会議） 参加者：Darren Kew、Eben Weitzman、伊藤洋典、森大輔 議題：志願者について、入学者選抜基準について</p> <p>開催日：2021年3月8日（合同入試委員会・合同運営委員会、メール会議） 参加者：Darren Kew、Eben Weitzman、Karen Ross、伊藤洋典、阿部悠貴、森大輔 議題：受験者の合否判定について、学位記の様式について</p> <p>開催日：2021年5月29日（合同入試委員会、Zoom会議） 参加者：Darren Kew、Eben Weitzman、Karen Ross、伊藤洋典、阿部悠貴、森大輔 議題：志願状況について</p> <p>開催日：2021年9月22日（合同運営委員会、Zoom会議） 参加者：Darren Kew、Eben Weitzman、Karen Ross、伊藤洋典、阿部悠貴、森大輔 議題：COVID-19の影響による入国制限下での履修について</p> <p>開催日：2021年12月10日（合同運営委員会、Zoom会議）</p>

参加者：Darren Kew、Eben Weitzman、Karen Ross、伊藤洋典、阿部悠貴、森大輔

議題：COVID-19の影響による入国制限下での履修について

開催日：2022年3月16日（合同入試委員会、メール会議）

参加者：Darren Kew、Eben Weitzman、Karen Ross、伊藤洋典、阿部悠貴、森大輔

議題：志願状況について

開催日：2022年6月17日（合同入試委員会、Zoom会議）

参加者：Darren Kew、Eben Weitzman、伊藤洋典、石原明子、土肥勲嗣

議題：委員の確認について、学生の選抜について、志願状況について

開催日：2022年10月25日（合同運営委員会）

参加者：Darren Kew、Eben Weitzman、Karen Ross、伊藤洋典、土肥勲嗣

議題：2023年度の院生の留学（派遣・受入）について

開催日：2022年10月27日（合同運営委員会）

参加者：Darren Kew、Eben Weitzman、Rita Kiki Edozie、伊藤洋典、土肥勲嗣

議題：UMass大学院生の派遣について、今後の共同研究について、留学希望学生との面談について

開催日：2023年2月13日（合同運営委員会、Zoom会議）

参加者：Darren Kew、Eben Weitzman、Stacy VanDeveer、伊藤洋典、石原明子、土肥勲嗣

議題：ワイツマン教授、ファンデヴェール教授の3月熊大訪問について、来年度授業計画について

開催日：2023年3月2日（合同運営委員会、Zoom会議）

参加者：Darren Kew、Eben Weitzman、伊藤洋典、石原明子、土肥勲嗣

議題：ワイツマン教授、ファンデヴェール教授の3月熊大訪問について

開催日：2023年3月7日（合同入試委員会、Zoom会議）

参加者：Darren Kew、Eben Weitzman、伊藤洋典、石原明子

議題：受験者の合否判定について

開催日：2023年3月24日（合同運営委員会、Zoom会議）

参加者：Eben Weitzman、Stacy VanDeveer、伊藤洋典、石原明子、土肥勲嗣

議題：授業科目のフィールドワーク対象地域について、今後の学生・学術交流について

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）

及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

- ・ 大学設置基準第51条2項に規定されている連携外国大学との「協議の場」について、実施状況（開催日・議題等）を記載してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ①FD講演会 (学びのユニバーサルデザイン) (2020年7月)
- ②FD講演会 (知の技法の伝承) (2020年10月)
- ③教員間の授業参観 (2020年12月)
- ④遠隔講義実施結果の検証 (2021年1月)
- ⑤FD講演会 (知の技法の伝承) (2021年12月)
- ⑥教員間の授業参観 (2021年11月)
- ⑦遠隔講義実施結果の検証 (2021年11月)
- ⑧FD講演会 (知の技法の伝承) (2022年12月)
- ⑨教員間の授業参観 (2022年7月)
- ⑩教員間の授業参観 (2022年12月)

b 委員会の開催状況 (教員の参加状況含む)

- ①本学社会文化科学教育部教員 (30名)
- ②本学社会文化科学教育部教員 (45名)
- ③本学社会文化科学教育部教員 (6名)
- ④本学社会文化科学教育部FD委員会委員 (4名)
- ⑤本学社会文化科学教育部教員 (31名)
- ⑥本学社会文化科学教育部教員 (8名)
- ⑦本学社会文化科学教育部FD委員会委員 (4名)
- ⑧本学社会文化科学教育部教員 (16名)
- ⑨本学社会文化科学教育部教員 (6名)
- ⑩本学社会文化科学教育部教員 (7名)

c 委員会の審議事項等

- ①FDの高度化の一環として「学びのユニバーサルデザイン」について、大学教育統括管理運営機構 川越 明日香 准教授が講演した動画をMoodleで視聴し、Moodle上で感想や質問等について講師と意見交換を行った。
- ②長年、大学院教育に携わる教員 (山田 秀 教授) が研究と教育の経験を語る講演会の開催し、感想や質問等について講師と意見交換を行った。
- ③社会文化科学教育部教員が稲葉 継陽 教授が公開する授業を参観した。
- ④社会文化科学教育部FD委員会において、遠隔授業を実施した科目の実施結果 (感想や取組事例、学生からの意見等) を検証し、遠隔講義の利点や課題等について意見交換を行った。
- ⑤長年、大学院教育に携わった教員 (深町 公信 名誉教授) が研究と教育の経験を語る講演会の開催し、感想や質問等について講師と意見交換を行った。
- ⑥社会文化科学教育部教員が外川 健一 教授が公開する授業を参観した。
- ⑦社会文化科学教育部FD委員会において、遠隔授業を実施した科目の実施結果 (感想や取組事例、学生からの意見等) を検証し、遠隔講義の利点や課題等について意見交換を行った。
- ⑧長年、大学院教育に携わった教員 (喜多 敏博 教授) が研究と教育の経験を語る講演会の開催し、感想や質問等について講師と意見交換を行った。
- ⑨社会文化科学教育部教員が 西川 里織 准教授が公開する授業を参観した。
- ⑩社会文化科学教育部教員が 安高 啓明 准教授が公開する授業を参観した。

② 実施状況

a 実施内容

- ①FDの高度化の一環として「学びのユニバーサルデザイン」について、大学教育統括管理運営機構 川越 明日香 准教授が講演した動画をMoodleで視聴し、Moodle上で感想や質問等について講師と意見交換を行った。

- ②長年、大学院教育に携わる教員（山田 秀 教授）が研究と教育の経験を語る講演会の開催し、感想や質問等について講師と意見交換を行った。
- ③社会文化科学教育部教員が稲葉 継陽 教授が公開する授業を参観した。
- ④社会文化科学教育部FD委員会において、遠隔授業を実施した科目の実施結果（感想や取組事例、学生からの意見等）を検証し、遠隔講義の利点や課題等について意見交換を行った。
- ⑤長年、大学院教育に携わった教員（深町 公信 名誉教授）が研究と教育の経験を語る講演会の開催し、感想や質問等について講師と意見交換を行った。
- ⑥社会文化科学教育部教員が外川 健一 教授が公開する授業を参観した。
- ⑦社会文化科学教育部FD委員会において、遠隔授業を実施した科目の実施結果（感想や取組事例、学生からの意見等）を検証し、遠隔講義の利点や課題等について意見交換を行った。
- ⑧長年、大学院教育に携わった教員（喜多 敏博 教授）が研究と教育の経験を語る講演会の開催し、感想や質問等について講師と意見交換を行った。
- ⑨社会文化科学教育部教員が 西川 里織 准教授が公開する授業を参観した。
- ⑩社会文化科学教育部教員が 安高 啓明 准教授が公開する授業を参観した。

b 実施方法

- ①、②、⑤及び⑧：FD講演会
- ③、⑥、⑨及び⑩：教員相互の授業参観
- ④及び⑦：授業方法について意見交換

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ①本学社会文化科学教育部教員（30名）
- ②本学社会文化科学教育部教員（45名）
- ③本学社会文化科学教育部教員（6名）
- ④本学社会文化科学教育部FD委員会委員（4名）
- ⑤本学社会文化科学教育部教員（31名）
- ⑥本学社会文化科学教育部教員（8名）
- ⑦本学社会文化科学教育部FD委員会委員（4名）
- ⑧本学社会文化科学教育部教員（16名）
- ⑨本学社会文化科学教育部教員（6名）
- ⑩本学社会文化科学教育部教員（7名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ①～⑩：実施結果を踏まえて授業準備を行い、教育の質の向上につなげる。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

実施有 令和5年2月（授業期間終了後）にMoodle上で授業アンケートを実施した。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果をMoodle上の学生掲示板で教員及び学生へ公開した。

（注）・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

令和5年5月現在、令和5年4月期入学者1名を含め、熊本大学をホーム大学とする学生が2名在籍している。COVID-19の影響による渡航制限が緩和され、今後は設置の趣旨・目的を達成できると考えられる。万が一再度COVID-19感染拡大が起こった場合等、その影響により一部計画変更の可能性はあるが、その場合も概ね計画通りに実施する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

令和5年4月1日 公表

b 公表方法

大学ホームページに掲載し公表

③ 認証評価を受ける計画

令和3年度に評価機構（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の認証評価を受審した。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [有]

≪ aで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載]

≪ aで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。